大野城市議会議員

平田不二香（ふじか）

福祉文教委員会委員
広報委員会委員

笑顔（えがお）のち、ふじか晴（は）れ

ひらた通信

ひらた不二香事務所
〒816-0943 福岡県大野城市白木原1-9-37 TEL 092-404-8870 FAX 092-558-5278

ご挨拶

今年５月１日、新しい令和の時代の始まりとともに、大野城市議会議員としてスタートラインに立たせていただきました。市民の皆様からの負託に応えるべく、安心・安全で健やかに暮らせる大野城市を目指しております。

議員となって、この数ヶ月の間にも、市民の皆様から日々の生活の中で悩んでいる、困っている、どうしたらいいのかわからないなどの問い合わせや相談をいくつもいただきました。私は、そういったお一人お一人に寄り添って活動できる議員を目指したいと思っています。市民の皆様が大野城で共に暮らせる喜びを持ち、笑顔で助け合う、そんな大野城であることを願っています。ただ私自身、勉強しなければならないことがたくさんあり、議員としてこれから多くの経験を積み、それを活かしていかなければなりません。議員を目指した「初心を忘れず」活動してまいります。どうぞ皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

活動報告

白木原区、瓦田区の敬老祝賀会に参加し、長寿をお祝いしました。
大野城市の人口約10万人のうち70歳以上は、15.673人です。

子どもたちに日本の伝統文化を知ってもらおうと、大野小学校で瓦田シニアクラブ主催の茶道体験教室のお手伝い。

地域の祭りに参加しています。白木フェスティ原（白木原商店会主催）、下大利七夕まつり（下大利商店会主催）では、ステージの司会を担当。「水城跡のあかり」では、子どもたち制作の紙灯明約1100個に点灯。

ひらた不二香プロフィール

昭和 36 年 2 月 25 日	長崎県長崎市生まれ
昭和 57 年	活水女子短期大学専攻科英文専攻修了
昭和 57 年	フリーアナウンサー NHK 長崎放送局 ニュース 630 キャスター
家族構成	息子３人
趣味	料理、点描画
資格	宅地建物取引士、教員二種免許

笑顔で暮らせる 大野城市を目指して！

平田不二香公式HP

平田不二香 facebook

平田不二香 LINE

大野城市議会通信

令和元年9月定例会において、
2つの項目について一般質問一般質問しました。

議会動画
YouTube

日本語での意思疎通が難しい児童・生徒への支援の取り組みについて

現在の日本は、少子高齢化という課題を抱えつつ、社会はグローバル化が進んでいますが、外国人労働者の受け入れを拡大する改正出入国管理法が４月１日に施行され、初年度となる令和元年度は最大で４万7,550人、今後５年間で最大約34万5,000人の外国人労働者の受け入れが見込まれています。

本市にも、中国、韓国は全体の53.9パーセント、ベトナムの14.9パーセントをはじめ、フィリピン、アメリカ、インドネシア、ネパール、スリランカ、朝鮮、台湾など、多様な構成となっており、41の国・地域の外国人が居住しています。

外国人だけでなく、日本人のグローバル化も進んでおり、外務省の統計によると、海外に滞在している日本人の数は、平成29年10月現在で135万1,970人で、統計のある昭和43年以来の最高を記録しました。最近５年間では９万3,707人増加しています。それに伴いさまざまな事情で日本語支援が必要となり、日本で教育を受ける児童・生徒のための対策が必要となります。今回、本市の現状と日本語支援について問いました。

質問　日本語での意思疎通が難しく、支援を必要とする可能性がある児童・生徒の本市の状況と対応は。

回答　小中学校から報告により支援が必要な児童・生徒の人数や状況などについて把握をしており、９月現在の人数は、小学校で９人、中学校で3人となっている。報告に基づき、県に対し日本語指導担当教員の配置要望を行っており、今年度は大利小学校に日本語指導担当教員１名が配置されている。

質問　平成30年４月よりスタートした小・中学校日本語支援ボランティア派遣事業について。

回答　現在、10名のボランティアが登録しており、言語は、英語、中国語、韓国語、ヒンズー語、フィリピン語、ベトナム語の６カ国語で支援が可能である。派遣されたボランティアは、通常授業や個別の学習指導、生活指導の場に入って支援活動を行っている。また、保護者へも面談での会話の補助や、連絡文書の翻訳などにより支援を行っている。

質問　まだ支援の手が届いていない児童・生徒はいないか。

回答　対象となる言語を話せるボランティアを見つけることができず、支援の手が届いていない場合がある。外国人の市民も安心して快適に暮らせる環境づくり推進のために、ボランティアを見つける努力を引き続き行っていきたいと考えている。

「れいわ子ども情報センター」の施設利用状況について

先日、厚生労働省が2018年の人口動態統計を発表しました。昨年、国内で生まれた日本人の子どもの数は91万8,339人と統計以降最も少なく、１人の女性が生涯に産むと見込まれる子どもの数を示す出生率も1.42で、人口の維持に必要とされている2.07人を大きく下回っています。また、結婚数も減少して、戦後最も少なく、年齢も晩婚化しています。

政府は、希望出生率 1.8 の実現を掲げて少子化対策を進めていますが、低下傾向は続いています。

子どもを産みたいけれども、不安のほうが大きくて、子どもをつくるかどうかの決断をしかねている若いご夫婦に勇気を与え、１人の子どもを設けた後、その子にできれば兄弟をつくってあげたいと希望するお父さんとお母さんの背中を押すことができるのは、安心して生み育てる環境を整えることだと思いますので、今回、本市の子育て世代への支援について質問と要望を述べました。

質問　本年7月、すこやか交流プラザ内にリニューアルオープンした「れいわ子ども情報センター」の利用者の状況、開催イベントの内容はどのようなものか。

回答　「れいわ子ども情報センター」は、すこやか交流プラザの１階と３階で事業を実施している。

１階では、就学前のお子さんと保護者を対象に親子サロンを実施している。

３階の子育て応援フロアでは、赤ちゃん広場、のびのび教室、親子あそび教室などの各種の親子教室事業を実施している。

親子サロンは、８月には過去最高の225人が利用された日もあった。

妊娠中の方を対象に、友達づくり及び情報交換の場を提供すること、妊娠、出産に対する不安を軽減することを目的として母親教室を開催している。

両親教室すくすく子育て教室は、対象者を大野城市にお住まいの妊娠中の方とそのパートナーの方としており、平成30年度の参加人数は、79組158名となっている。

質問　大野城子育てサポートブックの情報を活用することが、本市で子どもを育てる家庭での助けになると思う。ぜひ、サポートブックの子育て情報のＩＣＴ化を進めていただきたい。

回答　多くの方がインターネットを使って情報収集を行っていることから、簡単・迅速に必要な情報にアクセスできる仕組みづくりを、今後の研究課題とさせていただきたいと思う。

質問　父親の育児参画を応援するイクメン教室を開催する自治体が増えている。本市でも検討できないか。

回答　父親のみを対象とした育児を学ぶ教室などの開催は、先進地の事例を参考にしながら、調査・研究を行っていきたいと考えている。